

ペプチドリーム株式会社所属/車いすラグビー選手として 世界で戦う羽賀理之選手にお話をお伺いしました。



ペプチドリーム株式会社所属/車いすラグビー選手 羽賀理之選手

ペプチドリーム株式会社（以下、「ペプチドリーム」と言います。）は東証プライム市場に上場しており、環状ペプチドを用いて革新的な医薬品を生み出すことを目指しているバイオベンチャー企業です。2017年7月に本社兼研究所をキングスカイフロントに移転されました。今回、ペプチドリームに所属しており、車いすラグビー選手としても国内外で活躍されている羽賀選手にペプチドリームにおける活動内容や車いすラグビーについて伺いました。

ペプチドリームについて

ペプチドリームでは環状ペプチドを起点とした創薬開発事業を行っています。創薬開発事業では、メガファーマとの創薬共同研究開発などを主に行っており、2022年3月には放射性医薬品事業を取得し、子会社化したPDRファーマ株式会社では放射性医薬品の開発・製造・販売までを一気通貫で行っています。世界を相手に勝ち負けを競うアスリートと、グローバルマーケットで挑戦を続けるペプチドリームを似た境遇と捉え、パラアスリート支援を通じ、会社や社員にチャレンジ精神を浸透させていきたいと考えています。（IR広報担当者談）

羽賀選手の活動について

私はIR広報部に所属していて、基本的には日々の練習や大会への出場などアスリート活動に専念していますが、SDGsセミナーへの登壇や小学校での車いすラグビーの体験会等、社会貢献活動も行っています。また、社員の皆さんとの交流も兼ねてランチ会にも参加をしています。ランチ会は社員の組織横断的な繋がりを目的としていて、車いすラグビーの魅力や趣味などの日常の話をしています。ランチ会は、社員同士の関係を深められる機会でもあり、良い刺激になると良いなと思っています。私自身も車いすラグビーについて知ってもらえる良い機会と感じています。そのような経緯から、車いすラグビーの世界的な大会に出場する際に社員の皆さんの寄せ書きが入ったユニフォームを送っていただいたこともあります。

私は車いすラグビーの練習、試合などがメインの活動になりますが、会社には練習環境の整備等、サポートしていただいております。感謝しています。

車いすラグビーについて

女性プレイヤーもいますし、障がいの程度の幅も広く、年齢も15歳から60歳ぐらいの方が活躍しているなど多様性のあるスポーツです。車いす同士で激しくぶつかり合い、思いっきり転んで、思いっきり走ってもいい車いすラグビーの魅力を多くの方に伝えていけたらいいなと思います。また、タックルの時の車いす同士がぶつかる音は迫力があり、初めての方でも観ていて楽しめる競技だと思うので、試合を会場で観て迫力を感じてほしいです。

ペプチドリームへの想い

選手やスタッフだけでなく、運営の方、ボランティアの方、観客の方、応援してくれる方全部含めて、全員がひとつになれること



がスポーツの力でもあると思うので、社員としてペプチドリームにいて、会社としてひとつになるその一助になればいいなと思います。また今後は、ペプチドリームに所属しているパラアスリートのみなさんと一緒にペプチドリームとしてイベントや講演活動、学校訪問等の機会も増やしていけたらいいなと考えています。

↑寄せ書きの入ったユニフォームを受け取った羽賀選手

株式会社Jiksak Bioengineeringが帝人ファーマ株式会社と共同研究契約を締結



株式会社Jiksak Bioengineering（本社：神奈川県川崎市、以下Jiksak）は、帝人ファーマ株式会社（本社：東京都千代田区、以下帝人ファーマ）と共同研究契約を締結いたしました。本共同研究は、Jiksakの保有する前シナプス形成誘導マイクロビーズを用い、神経難病に対する新規創薬標的遺伝子の同定を行うことを目的としており、病態解明や治療法開発において重要な役割を果たすことが期待されます。Jiksakと帝人ファーマは、最先端のバイオテクノロジーを活用し、神経難病の新たな治療法開発に貢献して参ります。

[詳細はこちら](#)

イベントを開催しました！

ドイツ企業とビジネスマッチングイベントを開催しました！



バイオテクノロジーや製薬などヘルスケア分野の優良ドイツ企業が来日するスケジュールに合わせ、キングスカイフロント立地機関とのビジネスマッチングイベントを7月に開催しました。ドイツ企業は8社、キングスカイフロント立地機関からは約10機関が参加し、プレゼンテーションやパネル展示を中心に相互理解を深め、積極的な意見交換が行われました。プレゼンテーションで各機関の事業紹介を行った後、パネル展示では実機を使ったデモンストレーションもあり、全体を通して大いに盛り上がりました。また、イベントを経て連携を開始した企業もあり、早速結果を出すことができました。

キングスカイフロントに仲間入りしました！

東亜合成 成長分野の開発力強化のため、川崎フロンティアエンスR&Dセンターを開所



当社は、首都圏の研究開発中心拠点として殿町キングスカイフロント内に新たな研究施設を2024年8月に開所しました。バイオケミカルや電子材料など成長分野の高度な研究を可能にする専門設備を設け、メディカルケアや、次世代電池、半導体・電子材料などの研究開発および早期事業化を推進します。また、立地を生かし、首都圏および関東以北や海外顧客と連携した製品開発を進めます。さらに、共同研究やデモ実験を行うためのオープンラボや、技術交流や情報発信の場として活用できるコミュニケーションエリアを設け、顧客や社外研究機関などの協創拠点とします。新研究所は、ラボ内オフィスやフリーアドレスなど毎日ワクワクして仕事に臨めるアイデアの創出を促す環境であり、独創的な製品を生み出すオープンイノベーションの拠点を目指します。

[詳細はこちら](#)

天然資源から得られる新機能素材で人々の美と健康へ貢献

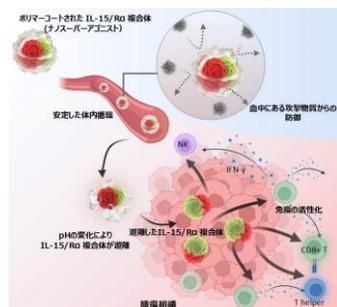


株式会社シー・アクトは天然資源の有効利用による機能性食品・機能性化粧品用素材の研究開発および販売を行っています。植物資源や水産資源の過去の利用実態や伝承知を通じてアイデアを得て、肌への親和性と保湿性を有する新しい化粧品素材や、毛髪への親和性と保湿性を有する毛髪のツヤ、保湿、櫛通りを改善できる新素材を開発、販売しております。また、微細藻類オーランチオキトリウムから、加齢などによる体の変調に対応する新たな食成分とその機能性を発見し、機能性食品素材として販売しております。こうした機能性素材を通じて、様々な美容・健康機能を提供することで、クライアント企業の持続可能な事業成功に貢献しています。

[詳細はこちら](#)

iCONM Now

免疫を調整するタンパク質にマントを着せて安定化



東京大学大学院工学系研究科のオラシオ・カブラル准教授（iCONM客員研究員）のグループおよびiCONMが共同で進める難治性がんの攻略プロジェクトチームは、抗腫瘍免疫活性が知られているインターロイキン15（IL-15）とその受容体αドメイン（IL-15Ra）の複合体にマントを着せる（ポリマーコーティングする）ことで安定化させ、それが、マウスの大腸がんに対する強力かつ安全な免疫療法であることを実証しました。その成果を記した論文は、日本時間で10月3日より米国化学会誌 J. Am. Chem. Soc. でウェブ公開されています。

タンパク質複合体は、その不安定性が医薬品開発の障害となりますが、同複合体を包み込み、酵素や免疫などによる攻撃から逃れる構造を本研究で確立しました。また、pH応答性のリンカーを用いることで患部到達後に内包するタンパク質複合体を放出させることも成功しています。一般的にタンパク質複合体は生体内で様々な機能の調整役を担っており、がん治療だけでなく多くの難病を含む自己免疫性疾患など幅広い治療領域での応用が期待できます。

H. Cabral et al., J. Am. Chem. Soc., in press
<http://doi.org/10.1016/j.ymthe.2024.03.022>

事務局からお知らせ

キングスカイフロントパンフレットを更新しました！

9月にキングスカイフロント立地機関一覧パンフレットを更新しました。新規入居機関も加わり、掲載機関数は64機関となっております。

弊財団が運営しているKSFネットからご確認いただけますので、ぜひご覧ください！

[KSFネットはこちら](#)

